

——家具の量と配置——

奈良女大家政 ○馬場宏子 梁瀬度子 磯田憲生 聖母女学院短大 國嶋道子

目的 視環境要素の中でも、居住者の自由なしつらいと関係がある室内装備的要因として、家具をとり上げ¹⁾、量と配置を中心に、住宅居間の雰囲気¹⁾に家具がどのように影響するかを検討した。

方法 第6報と同様に、10分の1の縮尺模型を被験者に観察させ、7段階SD法により評価検討した。評価対象は、前報²⁾での実態調査で得られた空間形状と家具のについての検討をふまえ、室の大きさ・形状、家具の種類・配置・量・高さを変化要因とし、その視覚的効果を検討した。

結果 因子分析の結果より、2因子が析出され、第I因子を活動性（Activity）、第II因子を価値（Evaluation）と意味付けた。とり上げた要因により、因子の分離が明瞭とならず、第I因子は開放感（Openness）と豪華さ（Gorgeousness）の2因子から成り立つことが認められた。また、家具の量と配置の空間効果を数量化分析および分散分析により検討した結果、家具の量は単独要因として、第I因子活動性に大きく影響し、室が広く、家具量が少ない場合に開放的な雰囲気が得られ、家具量が多い場合は、豪華な雰囲気が得られる。家具の配置は、第II因子価値に大きく影響しており、室が広く、家具をまとめて室の隅に配置した場合に快適といえる。また、家具の配置と室の形状には交互作用が認められた。

1) 馬場他：室内視環境要素の心理的影響に関する実験的研究（第5報）、家政学会関西支部研、1984.5

2) 馬場他：室内視環境要素の心理的影響に関する研究（第6報）、家政学会大会研、1985.6